

# 国語（中）部会

## I. 研究の概要

### 1. 研究主題 「主体的な思考・判断・表現を伴う学びの創造」

～対話的な学習を通して表現力を高める言語活動の充実を目指して～

### 2. 主題設定の理由

令和3年1月の中教審答申によると、これからの時代は「Society5.0」と呼ばれる、社会の在り方が劇的に変化する時代を迎えており、近年の情報化やグローバル化といった社会の変化が、加速度的に進展し、より複雑で予測困難な状況になっていくであろうと捉えている。このような時代だからこそ、子どもたち一人一人が、予測できない変化に対して前向きに向き合う必要がある。そして、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生社会の在り方を考え、試行錯誤しながら、問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、持続可能な社会の創り手となっていくことができる力を身に付ける必要がある。そのためにも、学力の三要素【基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして、主体的に学習に取り組む態度】のバランスのとれた育成や言語活動の充実を図ることが重要である、としている。

我々、教員は、そのための一つの手段として、「生徒の主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を活性化していくことが重要である。授業においては、今後も、単元や題材のまとまりの中で、子どもたちが「何ができるようになるか」を明確にししながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく必要がある。このような視点の中で授業改善をさらに図るために「対話的な学習」を通してより、伝え合う力を高め、子供たちの学びに向かう思考力・判断力・表現力を育てていきたい。

### 3. 研究仮説

生徒同士、生徒と教師との対話的な活動を通して、考えを伝え合うための表現力を育てることができる。

### 4. 研究内容

(1)教科書教材について の実践研究	(2)教科書教材以外について の実践研究	(3)理論研究	(4)教育課程研究
<ul style="list-style-type: none"><li>対話的な学習を中心とする言語活動の設定</li><li>教材の指定はしない</li><li>ICTの積極的な活用を図る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>対話的な学習を中心とする言語活動の工夫を行い、授業実践に生かす</li><li>言語能力を高め、言語感覚を豊かにするための実践</li><li>優れた教材の開発</li><li>ICTの積極的な活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>国語教育を取り巻く現状や課題について学び、課題解決の方策の手がかりを得ることで、直面する課題に対応する教師の力量を高める</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>教育課程追補編の作成を行った。今後は、それらを活用し、研究主題の解明に努められるよう、必要な調査や資料、事例の収集、研究等を行う</li></ul>

### 5. 研究方法

- |                  |                |              |
|------------------|----------------|--------------|
| (1)地域サークルでの研究推進  | (2)石教研第二次研究協議会 | (3)各種研修会     |
| (4)部会情報「一語一会」の発行 | (5)ホームページの更新   | (6)教育課程委員研修会 |

## II. 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の成果

- 4月15日(火) 石教研専門部会 第一次研究協議会(於 江陽中)  
 10月17日(金) 石教研専門部会 第二次研究協議会(於 花川北中)  
 11月18日(木) 理論研修会(於 とうべつ学園)  
 2月6日(金) 各市町村 第三次研究協議会

### 2. 専門部会 第二次研究協議会での交流

#### (1) 専門部会 第二次研究協議会での交流内容



【1年生 教材名「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から】

○授業者 : 高橋 大輔 教諭(石狩市立花川北中学校)

本時の展開(3/6)

	学習活動	知	思	主	指導上の工夫・留意点
導入 (5分)	①冒頭文暗唱 ②前時までの振り返り。 ③「なんでシート」の確認	○		○	・『竹取物語』について簡単な質問もしながら、誰でも答えやすい雰囲気を作る。 ・前時に自分がどのようなことを書いたかの確認をする
展開 (40分)	④「なんでシート」の交流(各班) →前時に個人で出した疑問を班ごとに交流をし、各班で1番気になる「なんで」をまとめる。 ⑤「なんでシート」の交流(全体) ⑥「なんでシート」交流を受けて自分たちなりの回答を考える(前時に回収したものから、こちらで選んだ「なんで」をいくつか提示する) →1班は2班の、2班は3班の・・・といった形で疑問解決のための活動を行う ⑦提出されたものを全体交流 →次回以降の授業で、この解決などを中心に学習を進めていくと話をする		○	○	②各班の交流:10分(ミライシートでまとめる→提出)  各班から出たものを全体で交流する(5分)  各班に再度分かれて、全体交流の中で出てきた疑問に対する答えを考えまとめる(ミライシートでまとめる(根拠も明らかにしながらまとめる)→提出(15分)  提出されたものを全体で交流(10分)
終末 (5分)	⑧本時の振り返りを(回答形式)	○		○	

#### ▼授業者より

年度当初から、「なんでシート」というワークシートを用いて、生徒の疑問や気づきを大切にしながら、授業に取り組んできた。グループ活動や意見交流など積極的に行うことができる生徒の実態から、古典作品でも主体的・対話的な活動が実践できると考え、本単元を設定した。

#### ▼意見交流(抜粋)

■「なんでシート」の活用で生徒が主体的に学習に取り組んでいた。■具体的な振り返りを行うことができていた。■班の中での役割分担を明確にすることで、より生徒の考えが深まるように感じた。■オクリンクを使用する際、質問ごとに提出先を設置すると、考えを比較しやすく、視覚的にもわかりやすいと感じた。■根拠を大切にしながら、話し合いを進めている姿が印象的だった。

#### ▼質問と回答(抜粋)

- 質問: 4つの問いが多かったのではないかと?  
 ●回答: 実際に授業をしてみて、「深まり」という視点で考えると、問いは少なくともよかった。  
 ○質問: 4つにも載っていない「疑問」を生徒が考えていくのもいいのではないかと?  
 ●回答: 主体的に学習に取り組むという観点から、生徒が感じた疑問について考えを深められたらよかった。



【3年生 教材名「説得力のある構成を考えようスピーチで心を動かす」】

○授業者：浅野 美智 教諭(石狩市立花川中学校)

- 本時の目標：1. 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。  
2. 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。

本時の展開(2/4)

	学習活動	教師の働きかけ	備考
導入 7分	1. 前時の学習の確認をする。 ・後輩に避難訓練の大切さを伝える、文章作成の振り返りを行う。  2. 本時の課題を把握する。  課題：相手に伝わる文章には何が必要かを考えて、スピーチ原稿を推敲する。	・前時の学習の確認をさせる。  ・本時の課題を提示する。	
展開 35分	3. 課題解決のため根拠のない文章(間違いだらけ)を例として提示して、各自音読する。【個人】  4. 根拠のない文章(間違いだらけ)から、相手に伝わる文章に必要なものを考え、課題に取り組む。【班】  5. 相手に伝わる文章にするためには、何が必要かをいくつか確認をする。【班】  6. いくつか提案されたものを基に、さらに課題解決の答えを考える。【班】	・提示した文章を原稿用紙(400字程度)で配布する。  ・音読しながら文章に印をつけさせて、なぜおかしいのかをプリントにメモさせる。  ・課題解決のため、いくつかの班に答えを発表させる。 ①「何がおかしいのか」 ②「どうなおすのか」 ③「どこがへんなのか」  ・同じものに班全員で取り組むのか、文章をいくつかに分けて、個別に取り組む最終的に班でまとめるのか、協議して取り組むように指示する。	○要支援生徒への手立て ・班での協働的な学びであることを呼びかけ、困っている人(伸びしろ層)がいたら、班の中で助け合うように指示する。  ・伸びしろ層には、簡単な例を示して理解できるようにアドバイスする。
展開 35分	7. 班で気づいたことを発表してもらい、全体で共有する。【全体】  8. 相手に伝わる文章にするために、確認した観点を基に、提示した文章を原稿用紙に書き直す。【班】  9. 班で考えた答えを共有する。  10. 発表での話し方も評価になるので、スピーチの様子を確認するために、ビデオ撮影をする。	・観点 ①いくつかの根拠 ②構成(頭括型、双括型、尾括型) ③ふさわしい言葉使い ④誤字脱字がない ⑤明確な主張 ⑥うそはつかない  ・班の考えの変化を見取れるように、朱書きで原稿用紙に追記させて、新たに書き直させる。  ・班での推敲を参考にして、新たな気づきを確認させる。	・伸びしろ層にはほかの人の意見を聞いて気づかせるため、声をかける。  思②(行動観察) 発①(ノート)
終末 8分	11. 本時の学習内容を振り返り、「相手に伝わる文章には何が必要か」という課題に対する考えをまとめる。【班】  12. 考えを発表する。【全体】  まとめ：相手に伝わる文章には根拠や構成、表現の工夫などが必要である。  13. 次回の学習の見通しをもつ。	・朱書きして推敲した原稿用紙を確認しながら、観点を振り返らせる。  ・いくつかの班に発表させ、全体で確認する。  ・次回の授業は「スピーチの発表会」をすることを伝える。	

▼授業者より

年度当初から、自分の意思表示をしっかりと行う実践を行ってきた。個人やペア活動などさまざまな形で意見を交流している。本教材は、聞き手を説得できるように、話の構成や表現の仕方を工夫しながら、スピーチを行う授業である。どうすれば相手を説得できるようなスピーチができるのか、生徒同士、生徒と授業者との対話を軸に授業実践を行った。

▼意見交流(抜粋)

■今、何をすべき時間なのか指示がととても的確だった。■防災に関わるテーマの設定がよかった。■スピーチは相手を意識することが重要なので、1・2年生に伝わるような表現を用いることが大切だと感じた。■説得力のある構成にするために事実の基づいた根拠を示す必要があると感じた。■根拠のない文章を推敲していたが、少し間違いが多いように感じた。推敲させるポイントを明確にすることで、説得力のある文章に必要な観点について気づくことができたように感じた。



### Ⅲ. 教育課程の研究

「今年度は、『対話』が重視された活動を単元計画の中に位置付けること」「ICT 及び関連するデジタルコンテンツのさらなる有効活用」「教科書内容や筆者の考え等について、自身の考えをもち、日常とつながるような生活に根差す教育活動」といったことを柱として研究を進めてきた。授業実践の交流や、研究授業を通して単元計画の中での対話の位置付けや、デジタルコンテンツの有効な活用方法について考えを深めることができた。今後も部会員で研鑽を積みながら研究を深めていきたい。

### Ⅳ. 理論研修会

#### 1. 理論研修会

- (1) 日時 11月18日(火) 13:00~16:20開催
- (2) 場所 当別町立とうべつ学園
- (3) 講師 桂川 淳氏(当別町立とうべつ学園 校長)
- (4) 演題 「授業づくりの力を高めるための理論と実技 ～言語活動の充実を目指して～」  
内容 ①部長挨拶 ②講師紹介 ③講演 ④質疑応答

#### 2. 理論研修会の成果

- 語彙を増やすための一つの方法として、教科書にある巻末漢字の利活用について学ぶことができた。
- 200字作文を書く上で、どのような条件を示すと書く力が向上するのかを知ることができた。
- 教材で、何を学ぶのかを明確にし、単元を貫く問いを示しながら単元をデザインしていくことの重要性について「ごんぎつね」を通して、学ぶことができた。

### Ⅴ. 部会研究の成果と課題

#### 〈成果〉

今年度は、先生方が対話に重点を置きながら授業を展開していたように感じる。また、各市町村や研修センターの研修会や他の先生方の実践を参考に、新たな授業づくりに努めていた。国語科における ICT とアナログとの使い分けの実践例も多く共有され、表現力を高めるために ICT が有効活用されていた。

#### 〈課題〉

対話的な活動では、生徒自身が自分の考えを伝えるために必要な語彙が不足しているように感じる。多くの言葉を知り、活用する中で表現力の向上が期待できる。ICT の有効活用については、今後も管内の先生方での交流及び研鑽が必要不可欠である。生徒が主体的に学習に取り組めるような授業をデザインしていくことが課題である。

(文責 藤原 義久)